

情報発信力の強化



消防庁審議官 くまの み どう 熊埜御堂 武敬

消防庁審議官の熊埜御堂です。7月末からようやく3ヶ月になりました。まだまだ慣れないところも多々ありますが、佐々木長官、西藤次長のもと一生懸命職務に邁進してまいります。どうぞよろしくお願ひします。

どんな仕事でも、情報を求めている人に的確に情報を送る工夫が大切です。消防庁についていえば、防火・防災に関係をもつ人達がどのような情報を求めているかを把握して、その情報を、都道府県や市町村を通じて、消防本部を通じて、または直接ホームページをみていただいたり、ツイッターで発信したり、「消防の動き」に掲載したりして、知らせていくことになります。様々な先進事例をわかりやすく提供して、今後の取り組みの参考にしてもらうことができれば、と考えています。

しかし、それ以上に、情報を知らない人にこんなことをやっている、こんな状況になっているということを知ってもらうことが大切です。

例えば、消防吏員の中の女性の比率とか消防団員の中の女性の比率について確かにそう高くはないだろうということは理解していただけるのですが、どちらも2%台だというと、とても驚かれます。広く知ってもらうことにより、消防における女性職員や女性団員の更なる活躍、地域における防災分野への女性の参画の推進につながるようになります。

また、消防団もどういうことをやっているかはなんとなくわかっていても、具体的な活動状況、操法大会や日頃の訓練の様子、地域の防火・防災活動への取り組みなどは十分知られていないように思います。消防団で地域防災のために先頭に立って活動する人達の様子や少年消防クラブが世界大会（青少年消防オリンピック）で活躍する様子を地域の住民などに見せる機会を数多く作ることが、地域防災に関する学習の機会を増やし、関心の高まりにつながっていきます。

これまでも、消防庁からの報道発表、ツイッターの発信、日本消防協会、日本防火・防災協会はじめ各団体から様々な形で出されている広報誌、都道府県・市町村や消防本部で行われている広報等の取り組みなど、情報発信の様々な取り組みが行われておりますが、消防庁をはじめとした消防機関で進めていること、検討していることを「消防の動き」や消防白書などを通じて、また市町村・消防本部・各団体などと積極的に連携することにより、皆さんに受けとめてもらえるように知らせていきたいと考えています。そのためには、消防庁の広報機能の活性化、情報発信力の強化が不可欠です。

今回は情報発信力について書きましたが、消防庁の業務においては、情報の中身をどう充実させていくかが何よりも大事です。審議官として、消防をとりまく様々な課題に全力で取り組んでまいります。よろしくお願ひいたします。